

平成28(2016)年「正覚寺報」1月号

ご案内

修正会(元旦会)元旦(金)午前7時~

仏教婦人会新年会 1月16日(土)13時~

仏婦恒例の新年会です。皆様に如来様お慈悲にお会い戴き、お育てに与って戴く場であります。どうぞ賑やかにお参りになって下さい。

役員会 1月17日(日)19時半~

初講ご準備のお打ち合わせを戴きます。

初講 2月7日(日)10時~例年1月最後の日曜が恒例ですが都合により2月7日となります。

ふとあおぎみるおすがたは

韋提希夫人(いだいけぶにん)の願いに応じて、「汝が苦悩を除く法を説こう」とお釈迦様がおっしゃるや否や夫人の目の前の空中に「その救いの法とは私だよ」と阿弥陀如来ご自身がお姿を現されたことであります。

これは「住立空中尊(じゅうりゅうくうちゅうそん)」と称する浄土真宗のご本尊のいわれであり、凡夫がお救いに与る秘密を解き明かされた観経第七華座観に示されています。

この御文のお示しに習って改めて仏説無量寿経第十七願文を頂戴致しますと、

本願の名号の功德を無量寿経一卷により縷々(るる)お讃え遊ばしたお釈迦様が、いよいよ実践的に称名念仏なさるそのお姿に合わせて現れ給うたお声こそは、阿弥陀如来のお名号(名の聲)だったと頂戴できるではありませんか。

“名の聲”と称される所以は、阿弥陀如来は、衆生をお救い遊ばすのに南無阿弥陀仏のお名前となりお喚び声となって衆生を目覚めさせる仕方をお取りになったからであります。

その次第を歌い上げた仏教讃歌が如来様から賜った「ふとあおぎみるおすがたは」(平成

27年1月号でご紹介)だったので。

昨春、田淵 幸響布教使(大阪芸術大学ピアノ演奏学科教授)様が讃歌に素晴らしいメロディを付し、永代経でご初演戴きました。

この曲は、一年間、仏縁のある度毎にご紹介して参りましたが、どこのご法座でもお同行の皆様にお慶んで戴け、「CDは無いんですか」等とお聞き戴くこともありました。

そのような次第で、今年の永代経(2月27日(土))に再び、田淵 幸響布教使にご出講戴く手はずとなったのであります。

ですので、当日は、皆様お誘い合わせて是非ご縁にお会い戴きたいと存じます。

浄土真宗では「聞即信」と称して「信心」は「聞」で表わされます(一念多念文意)。「聞」には、「啓示」の意味があり、阿弥陀如来が衆生の上にお姿(お心)を現されることを指すとは、大田利生和上のお示しでありました。

「お姿こそは声なんです」という忘れることのできない梯 実圓和上のお言葉が蘇ってくることであります。

1.ふとあおぎみるおすがたは

救いの名(みな)のほとけさま

されば、六字と名告(なの)らして

“称えてご覧”と勧めます

2.ふとあおぎみるおすがたは

救いの名(みな)のほとけさま

されば、わたしに称えさせ

耳に聞こえて喚(よ)びたまふ

3.ふとあおぎみるおすがたは

救いの名(みな)のほとけさま

されば、かさねて聞かして

われをたのめと喚び覚ます